

## 体験型鑑賞教育の研究

—— 鑑賞授業「あなたも審査員 ～表現にもいろんな道がある！～」をもとに ——

緒 方 信 行

### A study on experiential appreciation education:

An art appreciation class, “You are the judge of the art : There are many roads to artistic expression”

Nobuyuki Ogata

(Received September 28, 2018)



In this art appreciation class, “You are the judge of the art: There are many roads to artistic expression”, all of the students judge these three paintings as if they were art teachers.

#### 1. はじめに

以前から、「絵がうまく描けるようになりたい」「立体をうまく作りたい」という子ども達の願いを、どのようにしたら叶えることが出来るだろうかと考え、いろいろな試行を続けてきた。この思いは、美術教師の誰もが思う願いであり、目的であると考え。

思案した挙げ句、表現活動としては一点透視図法の易しい描画法の開発や、例えば写生大会においては実際の場所選びのコツや構図の考え方そして着色の技法などを指導して、その効果を試みたこともある。

そのような折、平成10年の学習指導要領の内容変更に伴い、小中学校の評価がこれまでの相対評価から絶対評価へと移行した。これまでの「5:7%, 4:24%, 3:38%, 2:24%, 1:7%」の比率による評価が崩壊したのである。教師は対応に苦慮したが、評価項目を定めABCの3段階で判断し、総合した結果をもとに評価を下すこととなったのである。同時に、美術における評価の観点も「関心意欲態度」「創造的な技能」「構想や発想の能力」「鑑賞の能力」へと変更された。

これはある意味一つの良いきっかけとなった。「関心意欲態度」が項目の最初に置かれて強化されたので

ある。もちろん美術教師である以上、子ども達に対して美術の技能を育成するのが最も重要なこととは思いつつも、「関心意欲態度」の面からも子ども達を育てて行く道筋が明確にされたのである。このことは、生きていくことの中で、少々の困難にも打ち勝っていく子ども達を育成することにも繋がり、課題に最後まで取り組む力が重要視されて、美術表現力の得意不得意を越えたところにも光が当てられたことになったのである。

本論文は、そのような評価に関することを扱った体験型鑑賞教育としての一教材である。「体験型鑑賞教育」とは、教師が提示した鑑賞題材の投げかけに始まり、関連する資料等を参考にしながら、対象作品を見つめ、関わる作家や審査員など「具体的主体人物」となってその行為の体験を行い、自身の試行を駆使して最終的に判断を下すという過程を通し、さらに、専門家あるいは大人としての教師の意見を聞き、自身の判断をより高次なところに移すことにある。今回の本論文での「具体的主体人物」は、子ども達の絵画作品を評価する「美術教師」である。子ども達は美術教師に成りきって生徒作品を評価することになる。いつもは評価される立場の子ども達が、評価する側の立場になるのである。

## 2. 研究の目的と方法

本研究の目的は、「体験型鑑賞教育」が子ども達に能動的な鑑賞の能力を身に付けさせることや、今後の自発的な鑑賞へと発展する効果を生み出すことなど、その有効性を明らかにすることである。さらにその過程で育まれるいろいろな副産物的能力を確認することにある。鑑賞授業「石庭をつくる」や「ルネサンスのライバル1～ブルネレスキとギベルティ～」により、すでに以下の項目が確認されている。

- ① 授業への意欲
- ② 審美眼の育成
- ③ 創造と工夫
- ④ コミュニケーション能力
- ⑤ 次の鑑賞への自主的発展
- ⑥ 体験的真実味
- ⑦ 制作表現への発展と意欲

さらに本論では、筆者が開発したオリジナル鑑賞授業「あなたも審査員～表現にもいろんな道がある！～」(以下、「あなたも審査員」と表記)の授業実践をもとに考察を行うこととし、本題材の授業案を掲載した上で、授業中における学習の様子、また学習シートへの記述などの反応から本研究の目的に迫ることにした。ここでは、筆者が本教材を開発した当時の授業展開と、新たに研究協力者により実践した中学校での授業展開および学習シートから見られる学習の様子をもとにしながら、本研究の有効性について明らかにして行く。本論文では特に、「表現への意欲が高まったか」「鑑賞の能力としての作品分析力が身についたかどうか」を検証する。

## 3. 実践研究

鑑賞授業「あなたも審査員」は、15年前の平成14年に筆者が熊本大学教育学部附属中学校勤務時代に開発し実践発表した授業(以下、緒方授業)である。「あなたも審査員」は、美術教師が生徒の作品を評価する行為を、生徒が美術教師に成りきって、絵画作品の評価を体験する内容の授業であり、数枚の絵の中からグランプリを決めるというコンクール形式の「絶対評価」と、個々の作品を観点別に捉え評価していく「絶対評価」の両方を試みる体験型鑑賞授業である。今回新しく平成29年に阿蘇市立一の宮中学校の上村萌子教諭に本題材による授業実践協力(以下、上村授業)をお願いした。以下、まずは基本的構想である緒方授業の指導案を提示する。

### 1) 授業の基本的構想(緒方授業)

#### (1) 題材名

「あなたも審査員～表現にもいろんな道がある！～」鑑賞(1時間取り扱い)

#### (2) 題材について

かつて平成10年の学習指導要領の改定に伴い、評価が相対評価から絶対評価へと変わった。教師が設定した評価規準は生徒にも知らせることになり、評価内容の開示が始まったのである。本題材は中学校で行われる写生大会を評価の面からとらえ、教師に成りきって作品を評価する体験型鑑賞を通した上で、作品制作への姿勢や自分にあった表現の選択などを考えさせ、具体的な最終イメージを抱かせていき、作品をどのように作り上げていくかを生徒に思考させることも目的としている。

評価を前面に扱えば、作品は価値的に貧しいものになるおそれがある。しかし、作品例を具体的に評価することにより、子ども達が表現方法や技法などに着目し、表現における多様性を理解し自分なりの表現を行えば、作品はより価値あるものになっていくと考える。はっきりした目的意識は、意欲につながり、表現も向上するのではないかと仮定する。自分にあった描き方を考えさえ、いかなる表現方法でも、絵画としての価値を持ったりっぱな作品になり得ることを確認させる、表現と鑑賞の融合した教材でもある。

#### (3) 指導内容について

時間数の削減により、大きな絵画制作は写生大会に限られるような現状があった。最近では写生大会の実施も難しい学校は少なくない。対象をじっくりと見つめ、大きな画面に形や色を置いて行く表現活動は実に厳しい状況である。ここでは写生大会の作品をもとに授業を進めて行くが、その実施の有無に関係なく、「作品の評価」という視点のもと授業を展開する。

描くことの楽しさは、その技法や表現方法、絵の価値観を理解すればより味わうことができるものであろう。美術の基礎・基本を「絵が描けること」とし、ここでは、まず、表現の多様性を知らせ、基本的な技法や制作の計画例を具体的に示すことにより、制作への取り組み方を考えさせていく。評価項目も明示するが、例えば、形についての評価などが、単に写実的な形のとらえ方の善し悪しでなく、表現方法にあった捉え方としての評価であることを理解させる。作例としては、写実的なもの、デフォルメ的なもの、ダイナミックなもの、繊細なものを提示し、どのタイプでもそれぞれで頂点をめざすことができることを理解させ、「表現にもいろんな道がある」ことに気づかせる。そのような理解自体を意欲づけとして、最終的には表現活動に目標を持って、完成まで取り組んでいくという態度も身に付けさせたい。ある程度美術表現を理解した時期に、絵画表現を改めて見つめ直させ、美術表現の多



様性を知った上で、価値観や表現方法を確実なものにすることにより、絵画表現ばかりでなく、これ以降のいろんな分野における表現や鑑賞においても、より高次の美術的な能力を身に付けていくものと考え。

#### (4) 学習の展開

配時	生徒の学習活動と内容	教師の支援	基礎技能 基礎知識
導入 10'	1 表現方法の違う4作品について審査する	○ 4種類の表現について考えさせる。 ・ 選んだ基準は何か（構図、配色など） ・ すべて同等で価値ある作品であることを知らせる ・ どのような観点があるか考えさせる。 ・ 以下の展開につづき導入として扱う程度とする。	□ 作品の評価 ○ 表現方法の違い ○ 作品の価値
展開 A 20'	2 作品例をもとに評価を行う  3 評価結果を発表する	○ 班ごとに1枚の作品を評価する。 ・ 6班で3例の内の1枚を評価させる。 ・ 観点の例を示し、具体的に作品を評価させる。 ・ お互いの意見を大切に、自由に意見を出させる。 ○ 評価結果を発表させ、様々な意見を出し合わせる。 ・ 観点をもとに発表させる。 ・ 「こうしたらもっと良い作品になる」という建設的な発表。 ・ お互いの意見をもとに自分の考えを高めさせていく。	□ 評価項目の設定 ○ 形 ○ 構図 ○ 配色 ○ 構成 ○ 芸術性 □ 意見発表
展開 B 15'	4 自分のこれからの取り組みについて考える  5 自分の表現のタイプを考える	○ 作品例やお互いの意見をもとに、自分の制作への目標を考えさせる。 ・ これまで出た意見をもとに、自分の考えをまとめさせる。 ○ これまでの作品例の中から、自分にもっとも合っていると思う表現を選ばせる。 ・ 自分の願望や可能性の立場から ・ 作品例を提示し、これからの自分の取り組みを発表させる。（代表）	□ 目標設定 □ 表現方法の選定
まとめ 5'	6 まとめ	○ 本時の学習を確認し、写生大会への意欲を具体的に高める。 ・ 取り組みからのアプローチ ・ 表現方法や技法からのアプローチ	□ 目標設定

図1 緒方授業 展開案

図1が、実際の指導案における学習の展開案であるが、まとめると以下のとおりである。なお、時間は変更している。

- ① 表現方法の違う4作品について審査する 10'
  - ・ 選んだ基準は何か（構図、配色など）
  - ・ 審査で、どのような観点があるか考えさせる
- ② 作品例をもとに評価を行う 10'
  - ・ 班ごとに3例の内の1枚の作品を評価する
  - ・ 観点の例を示し、具体的に評価させる
  - ・ お互いを尊重し、自由に意見を出す
- ③ 評価結果を発表する 10'
  - ・ 観点をもとに発表する
  - ・ こうしたら良いという建設的な意見も交える
  - ・ 他の人の意見をもとに自分の考えを高めていく
- ④ 自分のこれからの取り組みについて考える 5'
  - ・ お互いの意見を参考に自分の目標を考える
- ⑤ 自分の表現のタイプを考える 7'
  - ・ 作品例の中から自分に合う表現を選ぶ
  - ・ 自分の力量も考慮する
  - ・ 作品例を提示し、これからの取り組みを発表する
- ⑥ まとめ 8'
  - ・ トリミングによる構図の変化
  - ・ 取り組みの意欲からのアプローチ
  - ・ 表現方法や技法からのアプローチ

#### (5) 付属する資料等について

##### ①「学習の展開①」で使用する5作品

これらは全て生徒作品であり、外部のコンクールで特選などの評価を受けた優秀な作品である。



図2 生徒作品1



図3 生徒作品2



図4 生徒作品3



図5 生徒作品4



図8 英語科教師作品



図6 生徒作品5



図9 生徒作品7

## ②「学習の展開②」で使用する3作品

配色は美しいが、画面の大方を石垣が占めていて構図にやや問題がある図7の生徒作品。この頃の熊本大学教育学部附属中学校では新任の教師は、写生大会で絵を描かなければならなかった。他教科の英語科教師が描いた作品である図8。そして構図は悪くはないが着色が途中段階のように見える図9。この3枚の作品を班が分担して評価する。全部で6班の場合は、1作品について2班ずつがそれぞれの絵を評価することとする。



図7 生徒作品6

## ③ 板書

板書における対象作品などは図10のように配置した。最終的には評価表やトリミング例の作品も提示する。



図10 板書

## ④ 学習シート

学習シートは美的にできるだけ簡潔にして記録に時間を要しないように心がけた。まずは5作品の中からグランプリ1枚を決めさせ、3作品の中から1枚を観点別に評価して、これまでの自身の取り組みについて記入させた。



**『あなたも審査員！』～表現にもいろんな道が～ 学習シート**

**2年 組 号 氏名**

---

▼1 審査しよう！ グランプリはどれに？  自分で選んだ作品に○を



・班決定は  
決定記号



・決定理由



・どんな観点（評価項目）が？

▼2 評価します！（3点の中から1点を2班で）  審査する作品に○を



・評価説明





・良いところ

・改善点

▼3 今日の学習をおとしての感想  
これまでの自分の取り組みは、どうだったでしょう？

こんどの写生大会、  
あなたの選ぶ選は !!

① 意欲をもって 誠実に  
② 写真のように  
③ 印象派画家のように  
④ ダイナミックに  
⑤ その他

※ 評価結果

項目	自分は	班は
評価		
観点1		
観点2		
観点3		

図11 学習シート

## ⑤ トリミングによる構図の変化

図12は、図2をトリミングして縦置きとし、上方への石垣の上昇感と石組みの配置を強調する作品となっている。また、図13は図4のトリミングでこれも縦置きの構図とした。広がりから奥行きに注目した作品となっている。なお、トリミングによる構図の変化は、授業最終の「展開⑥」で構図を考える場合の参考的な資料として扱う。



図12 図2をトリミング



図13 図4をトリミング

## 2) 上村授業

授業は緒方授業をもとに組み立てられている。図16が上村授業の展開案である。まとめると以下のように表記できる。

- ① 本時の目標を確認する 3'
  - ・ 本時の活動内容を知る
- ② 表現の違う5作品について審査する 7'
  - ・ 5作の中からグランプリを決定する
  - ・ どのような観点があるか
  - ・ 班で話し合う
- ③ 作品例をもとに評価する 15'
  - ・ 班ごとに1枚を審査
  - ・ それぞれの観点ごとに5段階で評価
  - ・ 作品の良い点や改善点を根拠を持って
- ④ 評価結果を発表する 10'
  - ・ 評価結果とその理由
- ⑤ 今後の取り組みについて考える 10'
  - ・ 風景画の良さを理解できた
  - ・ 構図や配色、描き方などこだわりを持って
  - ・ 写生大会への意欲
- ⑥ まとめ 5'
  - ・ 本時の学習の振り返り
  - ・ 本時の自己評価
  - ・ 写生大会への意気込み

段階	学習活動【学習形態】	主な役割・指示	指導上の留意点	備考
導入 10分	1 本時の目標を確認する。 【一斉】	T この時間の目標を確認しよう。 作品を評価して、自分が描く風景面の完成イメージを持とう	・本時の活動内容について見直しを持たせる。	作品例 5枚 ワークシート
	2 表現方法の違い5作品について審査する。 【個人】 【VOTトーク（前）】	T 5作品の中からグランプリを決めてみよう。 T 班で話し合って決定してください。 T どの観点がありましたか。 S 構図、配色、意欲など	・全て同等で価値のある作品であることを知らせる。 ・選んだ基準は何か（構図、配色など） ・どのような観点があるか考えさせる。 ・以下の順番に説く導入として扱う態度にする。	
展開 15分	3 作品例をもとに評価を行う。 【個人】 【VOTトーク（前）】	T 軍ごとに、1枚の作品を評価しよう。 T それぞれの観点に関して5段階で評価をし、理由もはっきりさせよう。作品の良い点や改善点も出し合おう。	・7枚で8枚のうち1枚を評価させる。 ・観点を確認し、具体的に作品を評価させる。 ・お互いの意見を聞き合いながら「譲り合う」VOTトークを行うよう促す。	作品例 3枚 評価表
10分	4 評価結果を発表する。 【一斉】	T 評価結果とその理由を発表してください。	・観点をともに、わかりやすく説明させる。 ・「こうしたらもっと良い作品になる」という建設的な意見を言うようにする。	
10分	5 今後の取り組みについて考える 【個人】	T 作品を評価してみて、風景面のよさが具体的に分かりました。写生大会ではどんな作品を描いてみたいですか。自分の考えを書きましょう。	・構図や配色、描き方など、どのようなことにこだわって描きたいか、具体的に自分の考えをまとめさせる。 ・本時の学習内容をまとめ、写生大会への意欲を具体的に高める。	
	評価：①B評価をもとに、写生大会へ向けての取り組み方を考えている。 ②B評価の観点を理解し、自分の考えを述べている。 ※Bに当てはまらない生徒へは、机間指導でアドバイスを行いながら個別に指導する。			
まとめ 5分	6 やったことの振り返り	T 今日は作品の評価を通して、風景面を描くときの大切な要素を学ぶことができました。口頭に対して自分の振り返りを評価しよう。 T 写生大会では今日の学びを生かして良い作品を描いていきましょう。	・本時の学習内容を確認し、目標に対する自己評価をまとめさせる。	

図 14 上村授業の展開案

なお上村授業では、学習シートを以下のように考案し利用した。

2年美術鑑賞

**あなたも審査員～表現にもいろんな道がある～**

2年 組 号 氏名

目標：作品を評価して、自分が描く風景面の完成イメージを持とう

1 審査しよう！グランプリはどれに？

A B C D E

( )に決定！  
理由： → 班で ( )に決定！  
理由：

2 作品の評価をしよう！  
※評価結果（5・4・3・2・1）

( )	自分	班
総合		

評価理由

良いところ

改善点

3 写生大会、どんな作品にしたいですか？

自己評価  
○風景面の評価を、しっかり理由付けで行うことができた。（5・4・3・2・1）  
○自分が描く風景面の完成イメージを具体的に持つことができた。（5・4・3・2・1）

図 15 上村学習シート

上村授業での学習シートは緒方授業のものとさほど変わらないが自己評価欄が設けてあり、写生大会へ向かう姿勢が一段と明確になっている。

さて展開において、作品5点の中からグランプリを選出する行為は、美術作品などではよくみられるコンクールの形式であり、旧態依然とした相対評価的な決定方法である。上村授業で子ども達に人気があったのは、「図3 生徒作品2」と「図4 生徒作品3」で、それぞれ28人中13票と12票を獲得し、この2点で票を分け他の作品は数票を獲得するに留まった。奥行きがしっかりと描かれたり、細部まで誠意を込めて描かれたりした作品が子ども達に好感を得たのであろうが、ここでは選出の志向やその結果が目的ではない。数点の作品に対して自分なりに決定した価値基準により順位を出すことが、以前の全ての教科における評価方法であったことを知らせることが目的である。

また、図7から図9までの3点を観点別に評価した結果は平均的には図16の表のような得点であった。子ども達はそれぞれに5段階で得点を付けていった。それぞれの観点「意欲」「配色」「構図」の面から捉えると、図7生徒作品6は、ほとんど石垣という構図にやや問題ありと感じた生徒が少なからずいたが、意欲的に最後まで仕上げている態度に感心して、図16の表のような得点となった。

図8英語科教師作品は、画面すべてに誠意のみられる表現で好感を得ていた。意欲、配色、構図と申し分ない評価となった。子ども達も、努力の跡が見られる作品は大切にするという姿が見られた。図9生徒作品7は意欲の面で低い点数となった。完成に至らずに提出してしまったということ子ども達はイメージしたようである。「もっと最後まで描いてほしかった」という表記も見られた。結果は図7と図8の作品が拮抗し、図9の作品が水を開けられた感じである。

	生徒作品6	教師作品	生徒作品7
総合	4	4	3
意欲	4	5	2
配色	4	4	3
構図	3	4	4

図 16 評価結果

#### 4. 考察

生徒たちは、真摯に評価に向かっていった。これまでは評価される側であったのが、今回のように実際の美術作品を見て評価を下すという行為には子ども達の責任感も窺えた。「美術教師に成りきって」という条件を与えた時点で、時に鑑賞の授業で見られる茶化した意見はここにはなかった。責任持って評価するという誠実な姿が見られた。

各作品に対する図16の評価結果は妥当であると思



われる。確かに図7生徒作品6は着彩に工夫が見られ、最後まで取り組む跡が感じられる作品である。独特な構図とも言えるが、もう少し視点を変えた上で構図を決定していればもっと素晴らしい作品になり得るところであったろう。

図8英語教師の作品は忙しい教師業務の中に最後まで制作に取り組んだ様子が感じられる作品である。しかし、よく見ると、手前の花壇は写實的に描かれ（図17）、奥のホテルなどの形の表現や着色方法においては、概念的な表現（図18）へと変わっている。子ども達にも授業展開最終の「教師のまとめ」の中で話したが、概念的な表現の部分は自宅で空想的に仕上げていったと考えるのが妥当のようである。もし、写生大会の時間内で終了できなかったとしても、再度現場に行き描いたら、より素晴らしい作品になったと考えられることを伝えた。

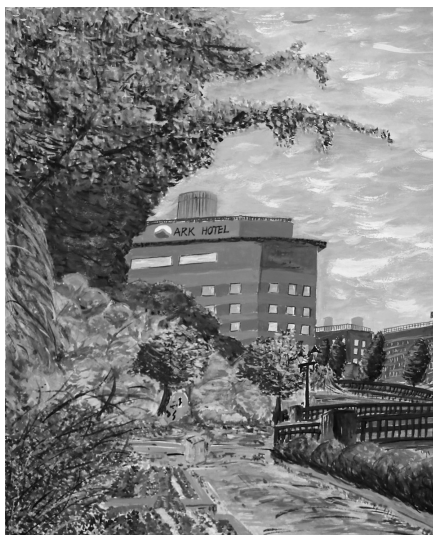


図17 英語科教師作品 部分 a



図18 英語教師作品 部分 b

図9生徒作品7はやはり最終までは意欲を持てず放棄した予想を子ども達も感じ取っていたようである。しかし、いろんな建物による構成がたくさん含まれており、形としては申し分ないという意見も出ていた。この作者がもし最後まで誠意を持って取り組んで着色に励んでいたら、素晴らしい作品になることは間違いないと感じていたようである。

さて、この授業では新しい取り組みを仕組んでみた。それは、3点の作品を評価する段階での方法である。これまでであれば、3点全てを班で評価するところであるが、1点ずつを担当して検討会を進めさせた。1つの作品を2班が担当することにより、他者の意見が班としても聞くことができ、担当しなかった作品についても気を配っている様子が窺え、「自分ならこう評価する」という意見も出された。このように担当数を少なくしても全体が把握されるということは、新しい手法として時間短縮の面からも効果的であると考えられる。

また、生徒作品1と3については、まとめの教師の話の中で、トリミングしたものを紹介した。図2と図12そして図4と図13の違いは同じ絵から全く新しいものが生まれたかのように子ども達は感動していた。この体験型鑑賞教育の授業は、スケッチ大会などの表現活動へも結びつくものであるが、子ども達にとっては、新しい見方、新しい表現方法にも気づくことができる機会となったようである。

今回の授業実践でも子ども達の真摯に授業に向かう姿が見られた。自身の意見を述べながら班員の声も聞き、自分の主張をより確かなものにしていく姿が感じられ、そこには本教材がコミュニケーションの場をつくり出し、その能力を高めるためにも有効であることが確認できた。これまでの授業から確認された項目、「① 授業への意欲、② 審美眼の育成、③ 創造と工夫、④ コミュニケーション能力、⑤ 次の鑑賞への自主的発展、⑥ 体験の真実味、そして⑦ 制作表現への発展と意欲」は、ここでも十分に達成されたと考える。以上の7項目の効用は明確なものと判断する。



図19 誠意ある検討会

## 5. おわりに

体験型鑑賞は、対象の人物に成りきることで授業を進めていく。成りきることは他者理解のことでもある。授業の感想の中には「審査する人の苦労が分かった」とか、今回であれば、「評価することの大切さが分かった」など労いの言葉が聞かれた。周りの人の立場を理解して生きることも本研究から生み出される項目とし

て取り上げることができると思われる。「⑧ 人間関係のより良い構築」という新しい項目として付加したい。



図 20 良好な人間関係

すべては「対象人物に成りきる」ことがいろいろなことを可能にしているのかも知れない。おどけたり茶化したりすることのない良好な教室の雰囲気が構築されていく。授業での望まれる姿がここにはある。「体験型鑑賞教育」によって身に付く能力は、今回最終的には以下の8項目となる。

- ① 授業への意欲
- ② 審美眼の育成
- ③ 創造と工夫
- ④ コミュニケーション能力の向上
- ⑤ 次の鑑賞への自主的発展
- ⑥ 体験的真實味
- ⑦ 制作表現への発展と意欲
- ⑧ 人間関係のより良い構築

今回研究協力者として授業を実践した上村萌子教諭は、大学時代にも本授業を行なっている。展開は緒方授業の指導案をもとに行なったが、本授業は教育実習生でも十分可能であることが実証されていることになる。これまで研究を進めてきた体験型鑑賞授業の「日本庭園～石庭をつくる！～」も研究協力者であった吉田香寿美教諭は大学生時代の教育実習の折に授業を行い、「ルネサンスのライバル1～ブルネレスキとギベルティ～」に関しても、現在大学院2年生の学生が学部4年次に一般協力校での教育実習で実際に授業を行っている。

本研究における各授業は、誰にでも実施可能ということである。加えて、各授業における資料は「どこでも授業セット！」として用意しており、貸出しも可能である。本研究は、その内容を美術の全鑑賞の授業の中で展開することを目的としてはいない。本研究の体験型鑑賞教育の授業は、いろいろな方法がある美術鑑賞授業の中の一つとして取り上げれば良いと考える。

本研究の内容は、体験的真實味をもって子ども達の心を揺さぶっていく。…「子ども達は真實を求めている」

」のである。教師の理想とする授業、子ども達が望む学習の真實性…さらに研究に精進して行きたい。

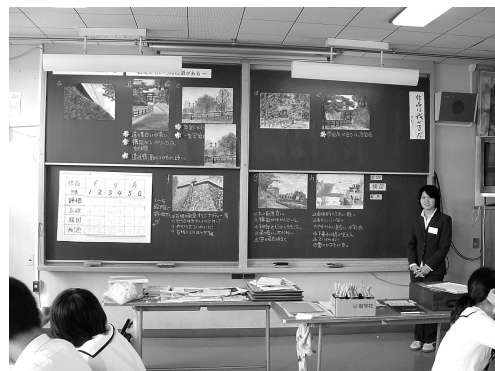


図 21 学生時代の上村実習授業

## 参考文献

- ・ 文部省, 昭和 45 年, 中学校指導書 美術編, 開隆堂.
- ・ 文部省, 平成元年, 中学校指導書 美術編, 日本文教出版.
- ・ 文部科学省, 平成 11 年, 中学校指導要領解説 美術編, 開隆堂.
- ・ 文部科学省, 平成 29 年, 中学校指導要領.
- ・ 緒方信行, 2002, あなたも審査員 ～表現にもいろんな道がある！～, 平成 14 年度研究発表会－指導案集, 熊本大学教育学部附属中学校.
- ・ 吉川登, 2011, 「行為としての鑑賞」再考－鑑賞学の基礎理論の再検討－, 美術科教育学会誌「美術教育学」, 第 32 号, 441-452.
- ・ 緒方信行, 2015, 体験型鑑賞教育の研究－鑑賞授業「石庭をつくる」をもとに－, 熊本大学教育学部研究紀要, 64, 205-212.
- ・ 緒方信行, 2016, 体験型鑑賞教育の研究－鑑賞授業教具「石庭授業セット」について－, 熊本大学教育実践研究, 33, 87-94.
- ・ 緒方信行, 2018, 体験型鑑賞教育の研究－鑑賞授業「ルネサンスのライバル I ブルネレスキとギベルティ」をもとに－, 熊本大学教育実践研究 増刊号, 87-94.

## 附記

平成 29 年度の研究協力者として実践授業をしていた上村萌子教諭, また, 授業実践の場を与えていただいた阿蘇市立一の宮中学校の多大なるご支援とご協力のご高配には, ここに深く感謝申し上げます。

なお, 本稿は平成 27 年度科学研究費基盤研究(C)「体験型鑑賞教育プログラムの開発と実践・評価」(課題番号 15K04451, 研究代表者: 緒方信行)としての研究成果の一部です。